

吉村明の みつひかり 栽培日誌 7



三井化学アグロ株
営業本部マーケティング部
ハイブリッドライス種子グループ
グループリーダー

1962年生まれ。1988年 北海道大学大学院農学研究科修了。同年 三井東圧化学株(現三井化学)入社、農業資材開発に従事(北海道工業所勤務)。1996年本社異動後、ハイブリッドライス事業開発を担当。2000年に事業ごと三井東圧農業株(現三井化学アグロ)に異動し、現在に至る。17年間「みつひかり」をライフワークに、全国を飛び回る。

今年も順調に生育しています！

2014年産のみつひかりは、東北(南部)から九州まで、田植えは4〜7月までと幅広い地域・作期で栽培されています。また、海拔ゼロ

②6月18日



草丈	茎数	葉色 (SPAD)
25cm	35本/株	41.9

①5月21日



草丈	茎数	葉色 (SPAD)
25cm	4本/株	31.1

図1：2014年産の栽培状況(福井県)

800mと環境条件・気象条件もさまざまで、マニュアル通りというわけにはいきません。毎年、「1年生」の気持ちでみつひかりを見たいです。

福井の事例(図1)では4月24日に田植えをしましたが、5月21日の段階で、分けつはほとんど進んでいませんでした。肥料をしつかり施しており、ガス発生による根痛みもなければ、気温が低いために生育が進んでいないのだと判断しました。その後、温度が上がると、一気に分けつが進み、6月18日の段階では30本以上の茎数が確保できました。みつひかりは生育期間がとても長い稲で、時には何もせず「我慢すること」が肝心です。

鹿児島・早期栽培では既に幼穂形成期を迎え、出穂は7月10日頃の予定です。

今年も大きな穂に出会えると思うと、今からワクワクしています。



「みつひかり物語」⑦

産地品種銘柄の指定

みつひかりは育成の段階から、「統計に載る品種に」と「産地品種銘柄の指定を受ける」ということを目標の一つとして掲げてきました。

日本の農産物検査には「等級検査」と「銘柄検査」があります。銘柄検査は、県ごとに検査員が玄米の特徴を見て「これは〇〇という品種」と鑑定します。この銘柄検査を受けないと、「〇〇県産みつひかり」と名前を謳って販売することはできません。検査の対象品種となるには、産地品種銘柄の指定を受ける必要があります。

「みつひかりプロジェクト」が立ち上がった2004年に、香川県が「みつひかり2003」の銘柄申請をしました。しかし、他の品種と区別することができないものの、「みつひかり2003」と「みつひかり2005」の玄米を見て、銘柄検査は難しいと判断され、銘柄指定に至りませんでした。その後、農水省と2年間にわたる打ち合わせを経て、みつひかりは2003と2005を銘柄検査では区分せず、「みつひかり(群)」として取り扱うこととなりました。こうして06年産より、岐阜・滋賀・

表1：産地品種銘柄の指定状況とその順位

年産	産地品種銘柄指定県			検査数量(t)	同左順位(※)	
	設定	廃止	合計		全銘柄	民間品種
2006	岐阜・滋賀・兵庫 岡山・香川		5県	1,074	79/196	2/11
2007			5県	1,955	71/197	3/15
2008			5県	2,412	67/192	3/17
2009	富山・石川		7県	2,785	66/209	3/17
2010	茨城・千葉・静岡・愛知		14県	3,849	60/221	2/21
2011	栃木・埼玉・新潟	香川	16県	3,655	59/230	2/23
2012			16県	3,699	59/238	1/23
2013	福井・熊本		18県	4,826	55/247	1/26
2014	福島		19県			

※みつひかり順位/銘柄数



栽培のポイント⑦

兵庫・岡山・香川の5県で産地品種銘柄に指定されました。以降、産地品種銘柄の指定を受ける県が増え、14年産では19県となりました(表1)。「統計に載せたい」から大きくステップアップしたみつひかり。まだまだ知名度は低いですが、これからも多くの皆様の力をお借りしながら、地道に普及していけたらと思っています。

前号までで、施肥から中干し(水管理)・穂肥について触れました。今年「元肥重視」と「遅めの中干し」で十分に茎数を確保している方が多いようです。中干しは、可能で

ウンカやカメムシ等の病害虫防除は、予防が第一

「みつひかり」は 魅力満載！

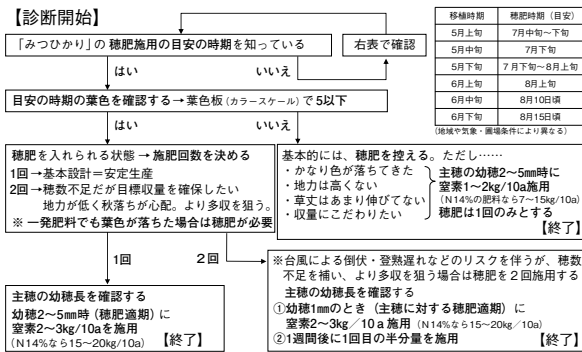
生産者インタビュー



原直樹さん

埼玉県K市でみつひかり栽培5年目を迎える若手チャレンジャー、原直樹さんは、手探り状態の初年度の栽培で反収13.4俵をとった。翌年から増肥して多収を狙ってきたが、毎年倒伏し、昨年は台風の影響で1カ月以上倒伏した状態での登熟となった。それでも反収12俵を下回ることなく、品質的にも問題なし。「いろいろな新品種が出てくるが、反収10～11俵ではふ～ん、という感じ。みつひかりは収量が多く、他の品種との価格差もほとんどない。刈り取りが遅く、刈り遅れによる品質低下もない。僕が収穫の本気モードに入るのは10月下旬から。周辺農家が忙しい時に暇なので、応援に行っています。みつひかりを導入して経営が安定しました」と話す。毎年1t狙いで多肥栽培してきたが、今年は施肥量を減らして倒伏を回避し、登熟90%を目指している。2014年産では全32ha中21haがみつひかりに。今年は寝ることなく、大きな稲穂を垂らしたみつひかりを見られるだろう。10月下旬からの収穫が今から待ち遠しい。

◎以下の設問に従って、穂肥の判断を行なってください。



注意：毎年、生育状態は異なるので、必ず、今年の状態を確認して判断してください。

図2：「みつひかり」穂肥診断のフローチャート



図3：昨年のウンカ被害の状況

倒伏の原因」とよく言われますが、みつひかりでは「入水のタイミング」がそれに当たります。穂肥については、フローチャート(図2)を見ながら時期等を確認してください。

今後大切なことは、病害虫の防除です。特に、昨年の減収原因となったのが「ウンカ被害」。収穫間近のみつひかりが枯れてしまった事例が少なくありませんでした。みつひかりは草丈が高く直立型で株元まで薬剤が届きづらいため、被害が発生してからでは防除効果が現われづらくなります。これを防ぐには適期防除しかありません。また、早期栽培では「カメムシ」による着色が目立ち、規格外と評価されるお米もありました。

病害虫防除は予防が第一。地域の発生予防をチェックして、適期防除を心掛けてください。

協力：
三井化学アグロ株式会社 営業本部 マーケティング部
ハイブリッドライス種子グループ
〒105-7117 東京都港区東新橋 1-5-2
汐留シティセンター
TEL：03-3573-9869 FAX：03-3573-9891

あれば力いっぱい強く行なってください。そうすることで下位節の伸長を抑え、倒伏に強く、草丈を抑えた稲体をつくることができます。

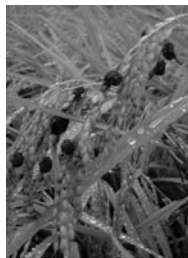
中干しのときに「圃場が乾き過ぎた」「葉色が落ち過ぎた」と入水や追肥をされる方がいらっしやいます。これはみつひかりにとっては大きな間違いです。

既に穂数が決まっている

・まだ幼穂はできていない

この時期の「入水・追肥」は「下位節を伸ばすためだけ」になってしまいます。一般品種で「早い穂肥は

稲こうじ病の防除ポイント



稲こうじ病は豊作の年に多いとされ、「豊年病」とも呼ばれますが、多発すると収量に影響するだけでなく、玄米に混入すると規格外になるため経済的な被害が大きい病害です。病粒にはマイコトキシン(かび毒)の一種であるウスチロキシンが含まれるため、食料や飼料としての安全性にも問題があります。

稲こうじ病は、田面に落ちた病粒が翌年の発生源になります。最新の研究では、移植直後の苗に稲こうじ病菌が感染することが明らかにされましたが、発病に至るまでの過程には依然として不明な点が多くあります。しかも、稲こうじ病は発病の年次変動が大きい上、籾に発病が認められるまでは病徴が現れないため、出穂期以前の診断ができず的確な防除が困難です。

本病の防除には、銅粉剤やモンガリット粒剤などが有効です。一般に、銅粉剤は出穂10～20日前、モンガリット粒剤は出穂2～3週間前が散布適期です。銅剤は防除効果が高いものの、天候によっては散布が難しい上、効果のある病害が稲こうじ病や墨黒穂病に限られます。これに対して、モンガリット粒剤は粉剤と比べると防除効果はやや劣りますが、稲こうじ病以外に墨黒穂病、紋枯病、疑似紋枯症、穂枯れなどにも登録があります。

稲こうじ病菌は穂ばらみ期に籾の中へ侵入するため、出穂期を過ぎてから薬剤を散布しても防除効果は期待できません。したがって、出穂期を正確に把握し、薬剤を適期に散布することが重要です。2014年は北日本を中心に、冷夏になる可能性があります。稲こうじ病は出穂1～2週間前に低温多雨などの気象条件が重なると発病が増加するため、多発に備えて薬剤防除を実施すべきと思われます。